

未曾有の大洪水は 大都市東京を襲った

画面左上方に利根川・渡良瀬川合流点、右手に国鉄東北本線の利根川鉄橋が見える。鉄橋下流の右岸には、控え堤があったために浸水を免れた。



利根川の決壊口付近が大きな被害を受けた

昭和22年9月15日午後9時頃、埼玉県東村（現・加須市）の利根川（新川通地先）で堤防決壊の恐れが生じた。午後10時には越水が膝までの水位となって水防ができなくなり、栗橋（埼玉県）の利根川水位が最高水位に達した16日0時20分頃、新川通地先の右岸堤防が延長100mにわたって決壊した。

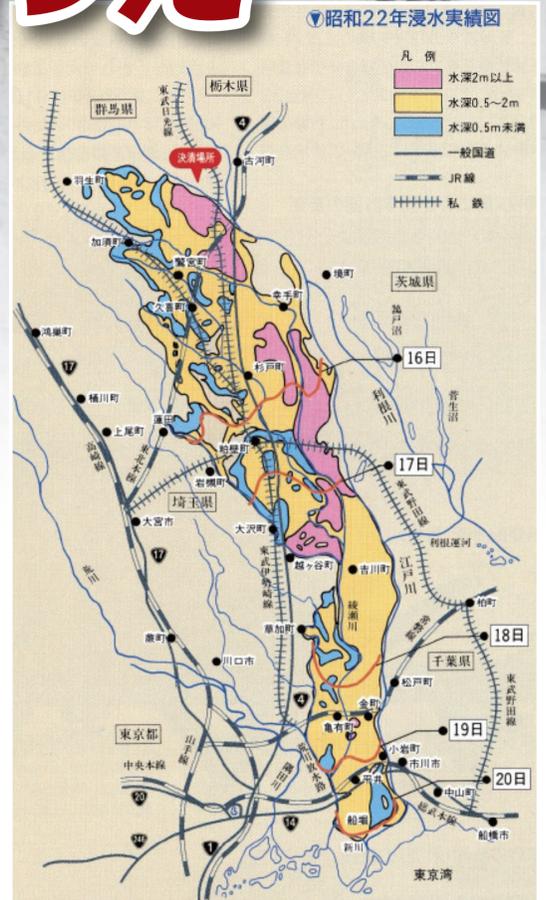
決壊口付近では濁流の勢いが激しく、民家が次々と流失し、屋根の上にすがりながら助けを求める人々や流れに飲み込まれた牛馬の光景は、とてもこの世のものと思えない悲惨さであったと伝えられている。利根川の氾濫流は、東に江戸川、西に荒川・大宮台地に囲まれた低平な中川流域を流下した。これは、かつて利根川が東京湾に向かって流れていた川筋であり、そこは乱流した河川の氾濫原である。

翌日以降も流下を続けた氾濫水は、20日午後2時頃、江戸川区船堀の新川堤防に到達したところでようやく停止した。その結果、葛飾区全域と江戸川区や足立区のほぼ半分の地域が浸水した。

この大河がひとたび氾濫をもたらすことになれば、その被害は決して想定外ではないことをカスリーン台風の教訓として学びたい。



約400mに渡って崩れた破堤口付近に集まる人々。遠景に東武鉄道の利根川鉄橋が見え、川の上流から下流に向かって写している。画面左の利根川から破堤口へ向う流れはかつての利根川の本流だった。



カスリーン台風での利根川氾濫流の流下過程
出典：内閣府防災情報のページ web サイト



葛飾区堀切付近の高架線路上に避難する人々。人々はいかだで行き来している。

手前が利根川、湛水域は現在の北川辺町と思われる。堤防上に避難者の姿が見えるが、現代も、北川辺町ではスーパー堤防上を避難場所に指定している。

●カスリーン台風による河川被害一覧表（国土交通省直轄区間）単位：m、（）は箇所数

河川名	利根川上流	利根川下流	江戸川	烏川	渡良瀬川	鬼怒川	小貝川	計
堤防決壊・破壊	650 (2)	2,650 (4)	100 (1)	242 (1)	1,750 (13)	500 (3)		5,892 (24)
堤防崩壊	1,790 (10)		1,000 (2)	566	2,725		4,200 (3)	10,281 (15)
堤防漏水	800 (5)							800 (5)
護岸欠壊・流失	8,450	3,660	780 (5)	800 (5)	6,785	1,020 (14)	1,800 (4)	23,295 (28)
水制流失	3,720	810	590 (6)		610		1,000 (4)	6,730 (10)
床固破損			100 (1)					100 (1)

出典：国土交通省関東地方整備局 web サイト

●カスリーン台風による被害状況

都県名	家屋の浸水（戸）		家屋流出・倒壊（戸）	家屋倒壊（戸）	死者（人）	傷者（人）	田畑の浸水（ha）
	床上	床下					
東京	72,945	15,485	56		8	138	2,349
千葉	263	654		6	4		2,010
埼玉	44,610	34,334	1,118	2,116	86	1,394	66,524
群馬	31,091	39,938	19,936	1,948	592	315	62,300
茨城	10,482	7,716	209	75	58	23	19,204
栃木	45,642		2,417	3,500	352	550	24,402
合計	303,160		23,736	7,645	1,100	2,420	176,789

出典：国土交通省関東地方整備局 web サイト

（写真提供：国立研究開発法人 防災科学技術研究所 所蔵：米国国立公文書館）